

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

古民家宿泊施設から始まる！交流人口から移住人口への転換プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

岡山県真庭郡新庄村

3 地域再生計画の区域

岡山県真庭郡新庄村の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

新庄村の主な観光資源として、村の中心部で132本の桜が植えられている「がいせん桜通り」と県境を跨ぎ遠くは鳥取県の大山、弓ヶ浜まで眺望できる「毛無山」があり、観光のハイシーズンは4月から10月である。村には食事を提供できる宿泊施設はないが、素泊まり民宿が2軒あり、村内宿泊の受け皿となっている。しかし、運営者の高齢化により宿泊需要があるにも関わらず営業を制限することもあり、このような状況が続けば村内での宿泊すらままならなくなるのが想定されている。

現状では、観光客に対する宿泊の受け皿が非常に小さく、観光客はほぼ村に滞在せず隣接する真庭市などへ宿泊しており、村内での消費が少なく、せっかくの観光客を十分に取り込めている状況とはなっていない。

また、移住先の候補として村へ一度訪れてもらおうにも中山間地域に位置し、公共交通の便が良くないことから、容易に訪れにくい状況にあるが、一度は訪れていただけるよう村の魅力が存分に詰まった観光PRを行うことで、観光とセットで移住先の見学ができるような取組を行うことが不可欠である。

4-2 地方創生として目指す将来像

【概要】

新庄村は中山間地域に位置し、昭和55年の1,357人をピークとして人口が減少しており、現在は929人となっている。これまでの移住定住の取組では、古民家を改修したコワーキングスペースの整備により、委託先の第三セクター（株）まちづくり新庄村に登録されたテレワーカー16人のうち、6人が移住者となっている。また、平成30年4月にリニューアルオープンした道の駅「がいせん桜新庄宿」ではリニューアル前と比べ、新規雇用者数が5人増え、うち2人が移住者となっている。このような取組の成果により、近年は人口の社会減は幾分和らいできてはいるが、今後も地理的条件が不利な村を持続的に維持していくためには、移住定住の取組を積極的に行っていく必要がある。

「田園回帰」という言葉があるように、若い世代を中心に物より暮らしやすさを優先する考えが醸成されており、確実に地方への追い風となっている。新庄村は「日本で最も美しい村連合」に加入するなど、都市部にはない自然豊かな資源や昔ながらの風景を保っており、村の中心部に位置する「がいせん桜通り」は観光客数が年間約54,000人、毛無山は約7,000人となっている。このように現在、観光目的で村に訪れている交流人口を移住人口へと結びつけることで地域の活性化を目指していく。

【数値目標】

K P I	事業開始前 (現時点)	2019年度増加分 1年目	2020年度増加分 2年目
古民家宿泊施設の宿泊客数（人）	0	240	24
古民家宿泊施設利用者のうち実際に移住した人数（人）	0	2	2

2021年度増加分 3年目	KPI増加分 の累計
24	288
2	6

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2の③のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ 地方創生推進交付金（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

2に同じ。

② 事業の名称

古民家宿泊施設から始まる！交流人口から移住人口への転換プロジェクト

③ 事業の内容

【事業1：宿泊施設運営事業】

村内には食事を提供できる宿泊施設はなかったことから、これまで観光客から、「食事付きの宿泊施設があれば」との声も上がっていた。このようなことから、現在、地方創生推進交付金を活用し、村中心部のがいせん桜通りの古民家を改修して、交流拠点機能を兼ねた宿泊施設を整備中であり、平成31年度から第三セクターの（株）まちづくり新庄村を指定管理者として指定し宿泊施設の運営を行うとともに、近隣の湯原温泉でホテル業を営む企業と協力するなど民間の宿泊施設運営のノウハウを活用することで効率的・効果的な事業実施を目指す。

【事業2：PR強化事業】

平成31年度にオープン予定の宿泊施設をはじめ、平成30年度には道の駅のリニューアルを行ったことから、がいせん桜通りや毛無山を含めた村全体のPRとして、新庄村がターゲットとしている都市部からの移住者への影響力が大きいマスメディアに観光モニターを実施してもらうとともに、そこでの体験を記事または番組で情報発信することで、さらなる交流人口の増加を図る。そして、実際に新庄村を訪れていただいた方ががいせん桜通りの町並みを保存している団体や森林セラピー体験を行っている団体等と協力し、村が移住先として素晴らしい地域と認識していただくことで、

将来の移住人口の増加を目指す。

また、特に若者の閲覧が見込まれるWEBでも広告を行うことで、子育て中の世帯にも新庄村の存在や素晴らしさを訴求し、子どもを含めた移住者の獲得を目指す。

そのほかにも、移住者へ対する待ちの姿勢にとどまることなく、中山間地域に位置し地理的条件が不利な新庄村の方から働きかけるアウトリーチ的手法として、都市部での移住相談会等に参加された方を対象に経費を一部負担していただき、新庄村への移住体験ツアーを民間事業者へ委託し実施する。このツアーの宿泊は、現在改修中の古民家宿泊施設ですることとし、そこでも村の町並み保存団体や森林セラピー体験団体と協力して、新庄村の歴史、自然を体験していただくことで移住の決め手となるよう取組を進める。

上記事業のほか、住宅確保策として村産材を活用した村営住宅の整備や、古民家の改修を進めている。地域コミュニティとの関わりにおいても、実際に新庄村への移住経験を持つ役場職員が移住担当者として配置されており、自らの経験を活かし親切・丁寧に対応することで、移住にあたっての不安要素を解消し、本事業の目的を実現することとしている。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

初年度が重要な時期と考えており、宿泊利用者を増やすため、本事業を活用した村全体のPRをしっかりと取り組むとともに、移住体験ツアーを行うことで宿泊者を20人は確保できると見込んでいる。また、年間で最も観光客の多い桜のシーズンには約20,000人も村に訪れることから、これらを取り込むことで少なくとも80人の宿泊者が確保可能と考えている。

【官民協働】

宿泊施設の運営を（株）まちづくり新庄村が行うことにより、民間の効率的・効果的な経営手法を取り入れ、サービスの向上が期待できる。また、行政は運営先と一体となって、観光・移住PRを行うことができ、それ

それぞれの強みを活かした取組を行うことができる

【地域間連携】

本事業を真庭地域のDMOである一般社団法人真庭観光局と連携し、真庭圏域の魅力ある宿泊施設として一体的かつ効果的に情報発信することで、観光入り込み客数の増加につなげる。また、地域間連携のメリットである相乗的な波及効果が期待できる。

【政策間連携】

関係者との協力により、観光客の増加を果たすことはもちろんのこと、移住者を呼び込む上で雇用の場の確保は欠かせないことから、観光産業との連携により雇用を確保していく。この宿泊施設運営は今後のまちづくりの考えに一石を投じるものと考えており、その結果を地域の活性化につなげる。

- ⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（K P I））
4－2の【数値目標】に同じ。

- ⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

重要業績評価指標（K P I）の達成状況を把握し、外部有識者の意見を踏まえ、P D C Aサイクルによる検証を行い、事業の見直しを行う。

【外部組織の参画者】

行政（岡山県）、金融（中国銀行）、マスコミ（山陽新聞）、住民（識見者）

【検証結果の公表の方法】

検証結果を広くホームページで公表する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】
総事業費 24,000千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から2022年3月31日まで

⑨ その他必要な事項

特になし

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

該当なし

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2022年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2に掲げる目標について、7-1に掲げる評価の手法により行う。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2の⑥に掲げる【検証結果の公表の方法】に同じ。